「エール」追い風に福島の魅力を伝えたい

ＮＨＫ連続テレビ小説「エール」のモデルとなっている作曲家古関裕而さんの出身地・福島県福島市ほど、古関メロディーを奏でる街はないだろう。ＪＲ福島駅の発車音は、新幹線が「栄冠は君に輝く」、在来線は「高原列車は行く」が鳴り響く。

東口駅前広場には、ピアノを弾く古関さんのモニュメントがある。生誕１００年を記念して２００９年に設置された。午前８時から午後８時まで１時間ごとに古関メロディーが流れる仕掛けだ。このほか、古関裕而生誕の地記念碑や平和通り時計塔、西口駅前広場モニュメントなどにも古関さんの名曲が採用されている。

福島駅東口からバス利用で１３分ほどの所に古関裕而記念館がある。「とんがり帽子」をイメージした建物の中には書斎が再現され、貴重な資料が展示されている。試聴コーナーもある。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う都道府県境をまたぐ移動の自粛要請が全面解除された６月１９日以降、県外からの来館者も増えている。６月の入館者数は５，６３２人と、記録が確認できる２０１７年１月以降で最多となった。エールの放送を追い風に、感染症対策を講じながら客足を伸ばしている。

中心市街地には、古関さんの足跡を紹介する「古関裕而まちなか青春館」が設けられた。古関さんの生家である呉服店「喜多三」の看板や、古関さんが１９３８（昭和１３）年に福島市で撮影した家族の日常風景の８ミリフィルム映像などが来場者の関心を集めている。青春館周辺では、福島市とＮＨＫの相互連携事業「エール展」が開かれているほか、エール関連の商品などを販売する「喜多三商店」も開店しているので、ぜひ立ち寄ってほしい。これらの施設を巡る際には、古関裕而記念館行きの周遊バス「ふくしまエール号」や古関裕而タクシー定額プランなどをお勧めしたい。

２０２１年３月に東日本大震災から１０年の節目を迎える。感染症対策を心に留めつつ、復興への歩みを進める福島県にぜひ足を運んでほしい。県民にとって、それが何よりの「エール」になる。

福島民報社　論説委員会幹事　紺野正人

ＪＲ福島駅東口駅前広場にある古関さんのモニュメント。古関メロディーが流れる

中心市街地に設けられた「古関裕而まちなか青春館」。古関さんの足跡をたどる資料が展示されている